

●●●●●●●●●●●●●●●● 教 務 委 員 会 ●●●●●●●●●●●●●●●●

◎新居浜高専教育フォーラム2003について

日時：平成15年12月26日(金) 13:00～17:00

場所：新居浜工業高等専門学校 第1会議室

主催：新居浜工業高等専門学校

後援：新居浜市教育委員会

内容：

1. 基調講演：教育現場で英語が使える日本人
(学生)を育てる方法
愛媛大学大学教育総合センター
助教授 折本 素氏
2. (1)事例発表1「コミュニケーション能力を伸ばす小学校英語活動のあり方」
新居浜市立神郷小学校 戸井和彦氏
(2)事例発表2「中学校英語、最前線から」
新居浜市立北中学校 高橋良光氏
(3)事例発表3「技能としての高校英語再考」
愛媛県立新居浜西高等学校 菅 開氏
(4)「語彙の定着をめざして…アクション・リサーチによる授業改善…」
新居浜工業高等専門学校 野村真理子氏
3. パネル討論 (英語嫌いをつくらないためにはどうするか) 講演者等
4. 懇談会

新居浜高専では、地域の教育課題を考える場として、「教育フォーラム2003」を企画、開催しました。第1回目の今回は、地域の英語教育のこれからの在り方を考えるため、「英語が使える日本人をどう育てるか」をテーマに、国際的コミュニケーション能力の問題をとりあげました。

フォーラムの参加者は100名を超え、会場が満席になるほどの盛況で、英語教育についての関心の高さがうかがわれました。参加者は、多数の小学校教員をはじめ、中学校・高等学校の英語教員、市教育委員会関係者、元英語教師、塾講師、企業関係者など様々でした。

基調講演では、愛媛大学で実施されている1クラス20名の少人数クラスによるコミュニケーションを重視した、学生中心の授業の紹介がありました。ゲーム・歌・ドラマなどを通して英語のリズム感を身につけ、日本人特有の「恥ずかしさ」を取り除き、受け身の授業から自主的な楽しい授業にするなど、多くの示唆に富む内容でした。

事例発表では、(1)小学校の総合的な学習の時間の一環として行われている歌やゲームを取り入れた英語教育の実践、(2)中学校の習熟度別授業 (少人数クラス)、スキット、ディベート、パソコンを使って外国へメッセージを送るなどの取り組み、(3)高校の大学入試センター試験リスニングテスト対策としての指導、コミュニケーションを目指すテキストの活用と指導、留学生の受け入れ、(4)高専の近年全国的に広まりつつあるアクション・リサーチと呼ばれる授業改善方法による学生の語彙の増強・定着についての発表がありました。

小・中・高・高専・大学それぞれの教育現場において、英語嫌いをなくし、英語が使える人を育てるために先生方が苦心努力されている現状がうかがわれました。



愛媛大学大学教育総合センター助教授 折本 素氏の講演